

令和5年度 第1回 大野市総合計画・総合戦略推進会議 議事メモ

日時：7月3日(月) 14時～15時30分

場所：結とぴあ 305・306号室(3階)

○委員：21名(全員出席)

○市：市長(途中退席)、行政経営部長、政策推進課長、政策推進課5名

1 開会

事務局より開会

2 委嘱状交付

委嘱状を机上配布

3 市長あいさつ

- ・ 本日は、ご参集いただき、感謝申し上げます。各界各層の皆様から、市の施策に対してご意見や評価をいただけることを心強く感じている。
- ・ 第六次大野市総合計画は、SDGs やコロナ対策、デジタル化などの要素を取り入れて作成した計画である。そのうち、第2期大野市総合戦略は人口減少対策に特化した施策をまとめた計画である。
- ・ 国は、SDGs の達成に向け優れた取組みを提案する「SDGs 未来都市」を募集、選定しており、大野市は本年度の募集に応募し、5月に選定を受けた。今回の選定を強みに、さまざまな主体との連携の輪を更に広げたい。
- ・ 第六次大野市総合計画は本年度で3年目となる。前期基本計画の残りの期間は大野市にとって重要な出来事が控えている。
- ・ 星空の世界遺産と呼ばれる星空保護区の認定に向けて、4月に申請書を提出し、現在、審査結果を待っている。
- ・ 高速交通網の面では、中部縦貫自動車道は本年秋に、勝原・九頭竜間が開通し、北陸新幹線は本年度末に金沢・敦賀間の開業が予定されている。
- ・ 令和6年は市制施行70周年の記念すべき年であり、市民協働を一層進める機会にしたい。
- ・ これらの機会を生かした取組みに加え、教育・子育て環境の整備、人づくりや人材育成、デジタル行政の推進など、さまざまな取組みを一体的に進めることが必要である。
- ・ こうしたなかで、皆様には総合計画・総合戦略に基づく施策の進捗状況の検証をお願いしたい。ぜひ、忌憚のない意見をお願いしたい。
(挨拶終了後、市長退席)

4 会長、副会長の選任

会長に、仁愛大学 特任教授 南保 勝 委員を、副会長に、大野市文化協会 副会長 松

田 典子 委員をそれぞれ選任

(会長あいさつ)

- ・ 先日、テレビに出演したときに、これまでの社会とこれからの社会が変わるということがテーマになった。人口減少やSDGs、コロナ対策などにより近年、社会が大きく変わってきている。
- ・ これからの時代は、社会活動や経済活動、文化活動がどのように変化するのかを見据え、どのように対応するかを皆で考えることが重要である。
- ・ 施策の中身を一つずつ精査し、皆様からご意見をいただきながら、有意義な会議にしたいと考えているのでご協力をお願いしたい。

5 推進会議の趣旨説明及びスケジュールについて ・ ・ ・ **資料 1・2**

(事務局説明の概要)

- ・ 本会議は、総合計画及び総合戦略に基づく施策の実施状況及び効果を検証するために設置する機関である。
- ・ スケジュールについて、委員の皆様には7月14日までに外部評価作業を行っていただき、8月10日には総合評価の報告を議題とする第2回会議の開催を予定している。
- ・ 8～10月には、特定分野の施策に絞って少人数で検討を行う専門部会を3回開催することを予定しており、10月下旬には現年度施策の中間取り組み報告を議題とする第3回開催を予定している。
- ・ 本年度中に大野市総合戦略を改訂することを予定している。

7 議事

(1) 令和4年度施策の外部評価方法について ・ ・ ・ **資料 3～5**

(事務局説明の概要)

- ・ 施策評価の全体の流れは、市の内部評価を踏まえて外部委員が外部評価を行い、その結果を基に推進会議代表者及び施策評価アドバイザーの意見を参考にしながら総合評価を決定するという流れとなる。
- ・ 評価の実施主体は市であり、外部委員の意見を取り入れて評価を行う。外部委員は、推進会議の委員21名のほか、「施策評価アドバイザー」として、福井県立大学経済学部教授1名も加わる。
- ・ 外部評価委員は、市の内部評価を踏まえて、指定された施策評価シートに「評価(ABCDの4段階)」と「意見」を記入していただく。
- ・ 指定された項目以外についても任意で意見を書くことはできるが、評価はできない。
- ・ 「市の内部評価の基準」は資料5のとおりとする。コロナ禍の影響を受けた取り組み及び成果指標には米印(※)を付けている。
- ・ 別紙1「外部評価シート」等を用いて、7月14日までに外部評価を報告いただきたい。
- ・ 8月10日の第2回会議では総合評価の結果を報告する。

(質疑応答)

意見なし

(2) 内部評価結果の全体説明について・・・資料6・7・10

(事務局説明の概要)

- ・ 資料6には、全24項目の内部評価結果を記載している。
- ・ 成果指標の令和4年度実績値でオレンジ色のものは、令和7年度目標値をすでに達成したものとなる。
- ・ 資料10は「分野ごとの説明」のグループ分けとなる。今回初の試みとなるが、この後、委員の皆様には3グループに分かれていただき、事務局から資料7に沿って説明させていただく。事務局の説明後に質問があれば、その場でご回答させていただく。

(質疑応答)

委員：外部評価を踏まえて総合評価を出すまでの過程を説明願う。

事務局：例えば、ある項目を評価する委員が3人いて、内部評価がBであった場合に、各委員の評価が、Aが1人、Bが1人、Cが1人というように分かれることもある。その場合は、計算式で外部評価の平均値を出し、それが内部評価と異なる場合は、会長及び施策評価アドバイザーの意見を参考にして総合評価を決定する。

委員：資料6に「令和5年度内部評価」と書かれているが、令和5年度の内部評価がこの時期に出るものなのか。

事務局：「令和4年度施策に対する内部評価」であり、前年度の評価である。修正をお願いしたい。

委員：外部評価は、項目ごとの担当委員に加えて、会長及び施策評価アドバイザーも行った上で平均値を出すということよろしいか。

事務局：お見込みのとおりである。

委員：資料6の年度の表記は、他の資料と統一したほうが良い。

事務局：以後そのようにする。

(3) 第2期大野市総合戦略の改訂について・・・資料8

(事務局説明の概要)

- ・ 昨年12月23日に国で閣議決定された、デジタル田園都市国家構想総合戦略では、「地方公共団体は総合戦略を勘案し、地域の個性や魅力を生かした地域ビジョンを再構築し、市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略を改訂するように努めること」と示された。
- ・ これを受けて、大野市としては「本年度中に第2期大野市総合戦略を改訂する」とことと

し、推進会議のご審議をいただきたいと考えている。

- ・ 大きく3つの改訂を行うことを考えている。
 - 1つ目は、戦略の名称を変更すること。
 - 2つ目は、地域ビジョン（地域が目指すべき理想像）を追記すること
 - 3つ目は、デジタル技術を活用した取組を追記すること
- ・ 庁内で作成する「素案」に対し、推進会議委員の意見を踏まえて作成する。
- ・ 改定後の総合戦略の「計画期間」は、現行のまま「令和3年度～令和7年度」とし、変更しない。
- ・ 「デジタル技術を活用した取組」は、現行と同レベルの大括りの表現とし、具体的にかなり過ぎないように記載する。具体的な取組みは、専門部会で議論する。
- ・ 総合計画は改訂せずに、総合戦略のみを改訂する。

（質疑応答）

委員：総合戦略にはマイナンバーに関する施策も載せるのか。

事務局：総合戦略は人口減少に特化した施策をまとめた計画であり、マイナンバーに関する施策は行政サービスに関連するものであるため、総合戦略に記載する予定はない。マイナンバーに関する施策は、専門部会で議論できると良いかと考えている。

（4）第2期大野市総合戦略の改訂について・・・資料9

（事務局説明の概要）

- ・ 本年度の専門部会を「デジタル部会」とし、デジタルを活用して、市民サービス、地域の課題解決を図るための取組を検討したい。
- ・ 主な検討内容として、1つ目は、「市民サービス向上を図るための取組み」を検討したい。市が市民の皆様提供する行政サービスを、デジタルを効率的・効果的に行えないかという観点からご意見をいただきたい。
- ・ 2つ目は、「地域の課題解決を図るための取組み」を検討したい。行政サービス以外で、市民の皆様日常生活や、事業者の事業活動、又は地域団体の地域活動など、民間部門でデジタルを活用して地域課題解決を図れないかという観点からご意見をいただきたい。
- ・ 開催回数は、8月から10月までに3回程度を予定している。

（5）その他

（事務局より）

- ・ 第2回会議の日程の案内
- ・ クラウドファンディングで叶える地域のみらい応援事業の案内

7 分野ごとの説明（ワーキング形式）・・・資料10

3グループに分かれ、事務局から分野ごとの説明

>>終了